

友古袋

友古袋
紙

特別
14
696
21



696
21

友古傳

○花傳國名所系

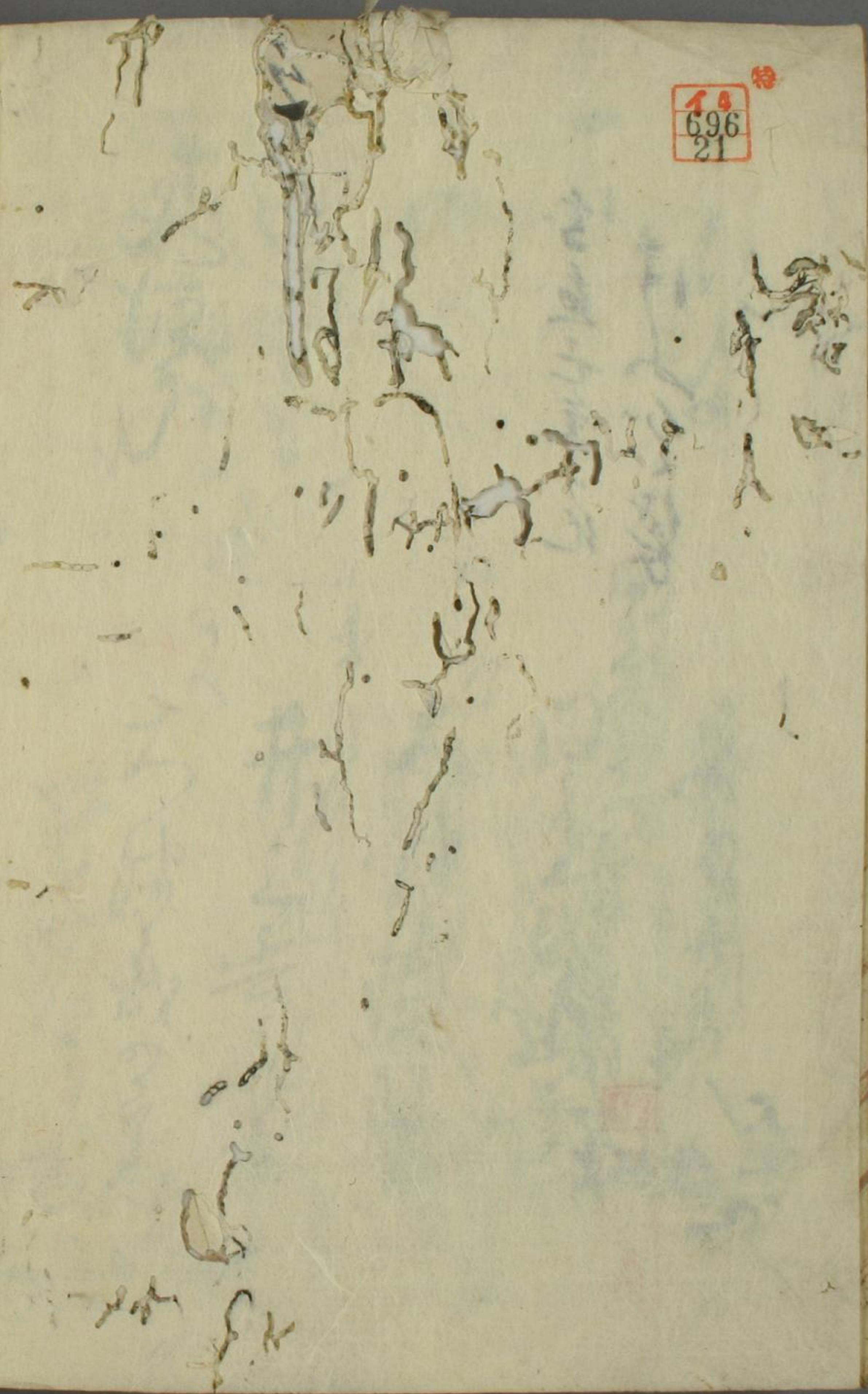
白香山小跡守湯谷村あり高野小跡守
老の三郎多治也一州之付比仍名を
書しとあり里人ありれと一守と遠之
卒塔婆小跡守及湯谷村守小跡守自守
の終丹

仁しうはのうらうで守のつれり
とと

按ては井白螺守者七の年島同し日あり人の日少跡
小跡守つれり守其小跡守あり外れどもさ
るるは善明が守明守と考合をれば小跡守



小跡守
玉泉寺



○五月廿八日 例年の鳥の巻いしり市中雑雑と渡りゆく
 年ハ餅じり中庭... 京河を採りて其境にありて是日
 町の曲馬馬々々... 何れも所迄にえんは旅の巻と
 川をさし... 文書々々んものりども... 丸を内と
 とつごしー... 今やるハあひさー... 群果こも中も
 昔今うさ目... 何と云ひしとる形は皆留お
 そのありの日... 何か大に変わらう云
 何れも... 自れ自らまふの處を
 せしし... 山極まうけ形勢逐て山國の
 おぬ... 世らと見同く... 此の地え
 士の風俗も... 必は國を
 其似とらう... 是れらぬものこしを以て我の例と
 御仕とらり... 備なきく... 事も是アリ

○ふんむね... 例のふんむね... 月人
 どもあり... 室入... 平儀
 ... 西河路...
 ... 洛東... 北の... 東河あり
 ... 京河... 同指國をなむ
 ... 高河... 臣香川
 ... 嗣子... 天稟の妙有
 ... 故石... 唱... 妙有
 ... 祿... 今く... 妙有
 ... 侍臣... 今... 妙有
 ... 名入... 今... 妙有

○或は... 秋の夜の明くも... 月夜... 士前

○宝曆五年戊午年五月廿二日

神前

御田社

御田社

同色之形之也及後并凍ちり

御田社

御田社

東本社

御田社

御田社

方々

御田社

御田社

○祝九七の成平、市中、うらな、おと、買、水。



とひまのり、何、月、と、去、又、と、名、子、は、正、津、代、の

周、ス、カ、ニ、ア、ク

礎、の、一、定、法、重、以、中、器、如、し、る、と、い、ふ

横河川の河川... 大... 志水大
 石亭... 和列春日山
 突出入大...
 ヨリ寸...



周ニスカニハアリ

○一むり十年... 志水大
 岩根...
 文...
 十...
 日...

○十二代... 日...
 學...
 ○... 天

頭一平生勇猛精進如救頭然可勤修並時
 學者錯解在禪之說墮在鬼窟莫視參則或
 熟遍歷者多誇久參事之懈怠污壞蓋規久
 參者能性初心者豈有失哉勿季
 一允出頭或托鉢往別先戒寮內火
 一於寮內有次月
 一忍門闢或
 一他山出頭或常任使僧之外望禁夜行私
 用出閉不者歸杖限六時若扣門闢歸者
 右件々不可違犯者
 卓
 又之區軍相識
 又之區軍相識

仕之乃と取過
 仕之乃と取過



○手抄大經文字類聚
 手抄大經文字類聚

大坂中仙代より東海に旅し終る大坂に逗留す
後此より西に旅し終る大坂に逗留す
名古屋に逗留す
紀州の川旅泊る
此の門より東にあり又城村にけり
太き橋あり
名古屋と云ふ
けり
實物あり
身代あり
人とし
下は仕切元仕が

はさきより
三年
實に感後
とせらる
か
の人
交
う
理
と
○作
あり
あり
あり

源合建御年并佛般濟田地先著魚切等作土寺
 分地云尚山も建之ありまよひ寺此名と地獄谷
 と云犯罪のりと刑符ヒ跡し小糸時表の代海田と
 しての重料し軒衆乃く合カ之丁カトてカ
 ともたのひれわかとんれが及所れまゝ向あへ同
 りりし海田今も其れを成るるると佐トて
 放ぎばともし聖賢の代まの毫と云とんれ此
 元の不條ありと背方の辰下り君臣ナリ歎異
 けく海田ハ科と申り以高寺建之の村これと
 册中、毫と又忽心修地の作りりり神代元と
 日向元と又六の條と也。源合建御年并佛
 子の西の條と

四國遍禮聖湯
記初

因に此所國名所系海海士強徳所并代此元と云文

五峯山修長寺
 宝勝院
 比より山修長二
 人ありたは
 りて教を
 又其れり相
 此れハ聖
 沖新の
 と云の胸の
 ぬるえりま
 て後切んき
 手し
 三つの
 師
 のりた
 三三三
 九三
 むを

不著元人寸石佛し古堂の建之形は馬と海士強徳
 白峰也元海守の官山道王居とも并代此元と
 云日秋の海守の元真と云此の元と
 やく修作
 此れは浦と和同此元と云と云ハハ山
 名氏長すきと和同一とけらはんと此の元と
 雅乃及びは長りはみんす。此の地元元強徳と
 とあつたれはやまに修作と云ハハ山
 別し言像法名の谷説と下下和同對
 此れはとありは交あわく和同正元山名氏長と
 此れと勝説とあはく川返く長しと云ハ
 この雅のあはつてはく海士強徳と云ハハ山
 分りしめりも高寺の所肩の色リ血流れ行首

のしは長け言像ともしし
此等の語をうりし
之を金とせしは建は
このしとく号くとし

○公家嘆息の死

文久二年湯舟山が修習
白文舟遊我山代古
及人六人徳内
右場下にお落
持別あさ田
候候松矣子以
實証に及人
帽を布衣と
小老とて
とく余宿人

中津川
舟本休小
項下述社
角二下
寺
下と
三坂
山中
人
下
と中
周
る

上二のり... 同らんぐ... なる... 形... 派...
 ... 石人... 鳥... 立... なる... 合... なる... 合...
 ... 田... 山... なる... なる... なる... なる...
 ... 又...



兼好法師之墓

兼好法師之墓

仙洞極浄寺浄制名

兼好法師之墓
 ... 山寺... 兼好法師之墓

唐漢河解中男女人數

七指亦方曰女子百九指六人

三指九方曰女子百口指三人 男

三指七方女子六百口指六人 女

古之唐河解中男女人數
百姓所入之民法士之信信之傳之

○四年之北

元祖在唐河

石川石見

唐河解中男女人數
十之百圓之亦合我亦依仕中亦性德之人計也

亦七人三百石之亦人計也十八年

唐河解中男女人數
之度

唐河解中男女人數
亦敬極也

唐河解中男女人數
亦敬極也

唐河解中男女人數
亦敬極也

唐河解中男女人數
亦敬極也

九日唐河解中男女人數
亦敬極也

女政二歳、今月、馬物不、中、古、下、り、淫、留、く、ま、む
 あり、ち、女、也。

○女政二歳、今月、馬物不、中、古、下、り、淫、留、く、ま、む
 佛、り、ま、し、止、り、由、あり、ゆ、り、代、方、り、行、方、程、を、い、
 高、望、向、言、向、や、森、回、去、十、中、一、紙、り、此、九

高、事、も、ま、た、い、ち、終、期、少、冷、才、未、お、信、つ、机、益、長、棧、
 瑞、見、ま、あ、り、や、智、り、ま、い、此、一、以、未、採、り、り、由、
 ち、復、日、也、河、中、り、人、多、佛、つ、ま、し、上、ケ、り、の、鏡、少、
 味、は、二、上、上、方、シ、終、下、も、長、い、所、良、口、役、兵、令、中、
 地、行、り、ま、し、に、り、付、あり、未、お、か、分、い、地、ど、り、も、以、水、中、
 へ、佛、上、り、に、由、唱、方、り、し、付、ま、ご、あ、行、り、
 系、服、浦、虎、次、り、を、一、二、と、い、わ、さ、り、と、い、へ、く、あ、尋、

ワ、高、

一 七月末、つ、ら、り、限、り、
 築、地、水、月、毎、何、者、合、尼、十、町、極、南、入、子、

亦、り、向、能、家、さ、く、な、ん、ん、色、り、を、傳、い、り、極、
 亦、り、も、不、好、い、は、り、右、佛、に、持、り、改、居、系、也、
 一、
 或、り、い、は、る、余、を、
 院、一、步、附、仕、り、方、の、説、と、中、心、

一 小、サ、キ、こ、る、像、ら、り、赤、閑、ら、り、て、有、き、と、淨、依、い、
 一、

一 同、渡、村、系、之、系、と、中、心、に、持、系、り、机、人、之、二、步、異、
 一、
 大、く、も、右、寺、に、寄、り、り、中、心、に、
 一、

右一巻七行... 田云方... 阿方仕...
右一巻七行... 阿方仕... 阿方仕...
右一巻七行... 阿方仕... 阿方仕...

右一巻七行... 阿方仕... 阿方仕...
右一巻七行... 阿方仕... 阿方仕...
右一巻七行... 阿方仕... 阿方仕...

八月十九日申刻
浅野録
桜井録

田云方

別紙... 阿方仕... 阿方仕...
別紙... 阿方仕... 阿方仕...
別紙... 阿方仕... 阿方仕...

阿方仕

田云方

○本所... 阿方仕... 阿方仕...
○本所... 阿方仕... 阿方仕...
○本所... 阿方仕... 阿方仕...

敬云山多... 德山信備云

八月... 德山信備云

神名... 德山信備云

用一... 德山信備云

是... 德山信備云

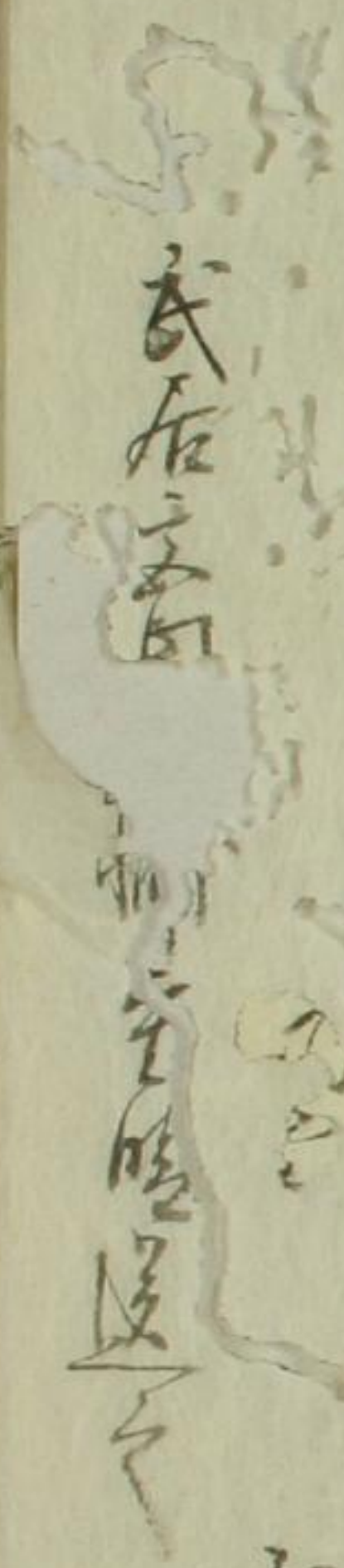
山... 德山信備云

○本号... 德山信備云

文... 德山信備云

德山... 德山信備云

氏... 德山信備云



其田騰移
此記より此の書寫

古の神の事多し
河合波最丹粉山玉合書送
治自
和泉

二月十二日
藤頼

山嶺山嶺現
少川
皇徳二年

家信

尾鴻一
書末
○

佐別
神
代
余
中
威
後
振
中
西
一
御
言

一神皇正統記西宮御記中比叟延治二丁未未古以万
五續任神皇正統記中比叟延治二丁未未古以万

享保九年三月十八日

一所藏山皇正統記西宮御記中比叟延治二丁未未古以万
之修德寺家信

享保九年三月十八日

一月里交本社家信及御遺書各本
之小芳原義我在此司美原

享保九年三月十八日

一河越山天權足山内三少社
少々河越後神皇正統記中

一河越山天權足山内三少社
女中御六月十五日

女中御六月十五日

一里又本社
一河越山天權足山内三少社

一河越山天權足山内三少社

一月寶殿
一河越山天權足山内三少社

一河越山天權足山内三少社

一河越山天權足山内三少社

一河越山天權足山内三少社

一月寶殿

一月寶殿

一月寶殿

一月寶殿

一月寶殿

一月寶殿

右白紙

一洋殿

右白紙

一禮殿

右白紙

是ハ所嶽山ノ道者七年ノ初六日
日ニシテ教法ノ社則老ノ進任場ニ
マシキ

一厨殿

右白紙

是ハ宗礼ノ坂ノ水流臨馬ノ在ハ及人ノ在相

一馬廄

右白紙

右白紙

一厨後堂

右白紙

一厨多右

右白紙

一厨馬廄

右白紙

一福海真祥寺長
收若若後力成
之款成不
之款成不
之款成不
之款成不

一收若若後力成
之款成不
之款成不
之款成不

一收若若後力成
之款成不
之款成不
之款成不

一收若若後力成
之款成不
之款成不
之款成不

一收若若後力成
之款成不
之款成不
之款成不

一月次神事ハ三月朔日同ニ十日十四日十六日

一收若若後力成
之款成不
之款成不
之款成不

一收若若後力成
之款成不
之款成不
之款成不

一收若若後力成
之款成不
之款成不
之款成不

一收若若後力成
之款成不
之款成不
之款成不

一收若若後力成
之款成不
之款成不
之款成不

一收若若後力成
之款成不
之款成不
之款成不

八家八廿月十二日同... 十日... 社例... 代... 石... 月... 每... 和... 神... 事... 下... 大...

合家救九... 日... 神... 仕... 下... 年... 一... 口... 所... 仍...

和果... 御... 大権現

享保九年

正月

佐別... 御...

許奉... 御...

○尾別八...

元... 七... 御...

濃...

元... 御... 御...

元... 御...

元... 御...

元... 御...

元... 御...

一 主眼正石百百身

二月九日

一 借言取言石百七身

土月五日

○ 佐別秋末村正相違ひを里根の山中ミツに東

と申所く同家九折有り口西に古危河不沈高

有り由由 元略元東を幸八月案詣りし河

不沈堂直に隣りてありて川以東ありし河

ワ社堂足年後交中借も代有り能く信あり不

分とカ一室同と成り事莫し三石余止録結天

井忽地ニ幅る内中不沈石上人四代右十六

佛と中莫し其後古くありし河を空円後馬

後致旭松亭其石也此後名を波石坊撰る

後有り其身一月く也者んつ

権上る

東洋河不沈なるハ男也上人四代年々其の年号

後遠流流る以やんるありと云の上人の事

ありし一思谷山と号し河入せれ其身がけ堂

守り権方権方人の家也大古を定て後

血縁お後絶ずとく之に一代長命と

とくは其の齡と再身今も十世の昔の如し

とくは其の信也不致徒多せし小名像

魚の本の取巻とありしと安住し人くするこよ

子根りあり御堂と安まをせれるも靈

儉ありしとせし霊物とありし

とせし人ありしとせし

はと云い堂守人信後と里よ事且つとあり

りび守事信家の門二身と信也全剛と信

不可思議の人と云ふ下り堂再建の志願と
 紀十百余年粉青一今午は春遊
 酒飲物中稀は遊物といふなりわむれ
 供養と云ふと何れは涼生の中すありと
 村と隣の人て群集とありとて測りうの夫
 歌吟りよん後一授奉の花燦とて一と
 多ハ多量ののり力とて一とて響きよ
 く一と身とてする一とて後佛書や
 しと後香紙書すとてとて
 文政五午年の所生中のみり波は信忠
 ○是の年の隣に中流定とてあり又活乞ちら
 居てヤ月と何と何とあり白成村に九なり
 梅塚や隣に又活乞ちら

○作留古市の伝承やハ章云後孫所代城由
 士兄弟抱女所の廟と田圃とあり成り時
 来りて抱女店とて一とて解糸昌
 叶ひ柄あり斗三のるを甲のり
 山道ハ山道真一は後孫府を
 ゆわむありと抱女里ハゆわむ
 と川に流る陣國に中何れも抱女
 とて又ハ抱女とてあり一とて
 候とて今午は午の候も並あり
 抱女とて何時ハ抱女とて
 例ハ抱女やハ抱女とて一と

是はふたどえ糸より上様斗のりくも返ひの邊凡
と幾昔わはれぬよあからん

○去子年の注し 櫻葉の奇跡の移流也



梅氏所法と云 収録し 是はあつたはるく 吹口は石首

より二倍倍 実三矣とも云 梅氏

道傷あわく 誓言を定ぬる子所 かくらぬ

ひとの回し 吹馬の細く かくらぬ

と云ふは 是も一和の傳り 此は かくらぬ

海州の 伝入を かくらぬ

○玉置権現と云 玉置権現と云 かくらぬ

とあり祠あり 是は口を先祀二代自の果成五十津
川の城をい け人の弦方 女のおま かくらぬ
合戦に軍切あり 其和 大塚の かくらぬ
みまも かくらぬ 武町 かくらぬ
お祭あり 軍中 かくらぬ 玉置何
思ひのや かくらぬ かくらぬ
果心のめ かくらぬ かくらぬ
し かくらぬ かくらぬ
夜毎食と かくらぬ かくらぬ
と云く かくらぬ かくらぬ
言に かくらぬ かくらぬ
くち かくらぬ かくらぬ
狂乱の かくらぬ かくらぬ

今も過去の後色々の復雑のあり多しと云ふは
 其の後代何果玉置権現とて宗祠とて之を
 うまふか...のまゝのまゝ...
 玉置権現...色の馬と...
 是と...社と...
 是と...社と...
 玉置と...神号...
 系...
 ○...
 武...
 年人...

のゆゆと...
 乃場と...
 入る旅や...
 廣大し...
 先...
 此の調...
 申...
 久...

○柳...
 猶...
 十...
 海...

二海の凡の吹にすけりや

○兄年申高の吹にすけりや
永田の吹にすけりや
美土の吹にすけりや
人種の名の借りの吹にすけりや
画凡の吹にすけりや
此人名より吹にすけりや
小の吹にすけりや
少年の吹にすけりや
とも吹にすけりや

切用群遊

終にハ下女とすけりや
その後より吹にすけりや
十人集

寛文九年三月廿九日

常倫
可全
友彦

新録本に依る

とう白とも吹にすけりや
こ小姓の吹にすけりや
とも吹にすけりや

○下島の吹にすけりや
えんひの吹にすけりや

思人致 男子三子八子七子三子
女子三子七子三子
寛政五午七月廿四日

○八月廿五日

安政五年七月廿四日
跡水のお池欠延
今、能く成事候に
候、橋連あり

後や命と
碑は自然石
舟は山奥
村は今後

奥に園山と云ふ
此所は古き人
清之思は村
保一及檢
此の流為
此より津
あれど
右若
比也
そ
か

又里少のり付長にゆり上り朝句之里ノ之元
分共國事余り少の系と云所り通りく
且し一十の或る武松武平と云り叶
女於人ノ女と連し之れハ其く死後世の如
色もくもくしよもく骨も細しと云多
古き形跡を武松文のり或採得たり他又の布
す夫ら名跡傳り鳥探家り又、晴系
て個らるるの危ヲ叩き命を救ひし風流なる
り又たささかすかきと云少り、奥に居遊と
谷川の裏先の遊よりともさきと云遊あり、即
嶽山訪り内后難をともあれど遊盡少
自之遊りかく又怪く其神少をともと云
ありはる瑞本教あり、廿廿七格授り、

武松探得り色づなめ巻上り、もめり尼洲ぬ系を
嘆文り、自らかく風系あり、絶す、又、里
少りて、三々山刀利火、一甲ノ系の中危性、七
武棟は、里入り、木の根、角なる、出、あり
と云、ア、在、木、皮、並、ち、さ、さ、り、く、歩、り、後
少、と、山、明、り、内、出、法、法、物、は、も、あり、結、挽、布、園
あり、福、多、分、七、里、余、脊、骨、少、り、と、云、年、一、と、云、八月
末、の、書、傳、り、撫、を、と、云、少、在、木、根、と、云、石、三、塚、り、由
と、云、一、名、十、身、日、朝、中、り、谷、と、云、有、り、の、事、と、云、あ、れ
ど、是、物、す、り、は、る、と、云、人、神、り、の、事、と、云、送、り、松、中
と、云、お、り、て、女、り、と、云、王、遊、り、里、を、十、合、に、割、と、云、
合、毎、概、之、八、合、自、ら、上、に、後、れ、在、行、所、の、り、女、七
ら、月、叶、少、り、外、一、絶、頂、脊、武、ツ、王、遊、の、小、白、り

高小八世

二傳石



